

# セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

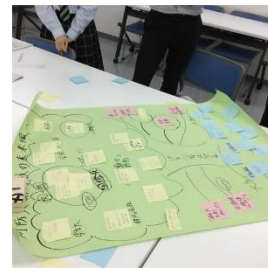
第13号 (2021年11月 発信)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートします。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

## 県立周防大島高等学校の取組



生徒・学校運営協議会委員・教職員による熟議



熟議のプロセスを可視化



熟議の共有

県立周防大島高等学校は、平成28年度に県内の県立高校で初めてコミュニティ・スクールを導入しました。平成28・29年度には内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」において上位入賞を果たすなど、地域と連携したその取組は全国的に高く評価されています。さらに現在、「アロハ・フラ島高」に加え、「ニホンアワサング」の研究や「公（周防大島町）大（山口県立大学）高（周防大島高校）連携協力に関する協定」の取組として「アロハプロジェクト」などの新たな動きをつくり出しており、11月1日に開催された「地方創生フォーラム in 山口」において全国に向けて、その取組事例を発表しました。注目！

その周防大島高校で、10月1日（金）に第2回学校運営協議会が開催されました。

協議会の前半では、安下庄校舎、久賀校舎のこれまでの取組を報告し、11月12日（金）に実施された第7回やまぐち高校生県議会に岩国・柳井地区代表として出席する生徒2名が委員の方々に事前に議会での質問内容について御意見をいただきました。後半は協議会委員の方々に生徒会役員5名と教員も加わり3つのグループに分かれ、「周防大島高校の未来について」をテーマに熟議を行いました。ポイント！

現在、多くの県立高校等で熟議が行われていますが、熟議成功の秘訣はファシリテーターにあります。各グループのファシリテーターが当日の熟議のゴールイメージを共有し、当事者意識をもって臨めるかが大変重要です。

そこで周防大島高校の大田校長先生は、各グループの進行方法をファシリテーターの先生方に任せることにしました。そのようにすることで、先生方に熟議を自分事として捉えてもらうとともに、熟議の楽しさや有効さを体験してもらおうとするねらいがありました。ポイント！

周防大島高校のように、ある程度熟議を経験した学校において、ファシリテーションを先生方の工夫に任せていくことは、先生一人ひとりのスキルや経験を高めるとともに、熟議を学校文化として根付かせていくために大変有効な手法だといえます。

熟議の最後のシェアリングでは、「県内外から集まる生徒の多様性や地域の豊かな自然を生かして学びの場を充実し、より魅力ある学校をつくっていこう」という学校の未来像等が語られたことがとても印象的でした。

### 参加した生徒の感想

- 様々な立場からの御意見が聞けて、それらを実現するために、まだまだ自分たちにもできることがあると思った。
- 高校卒業後は、高校で学んだことを生かせる大学への進学を考えている。自分は県外出身者だが、将来は周防大島に帰ってきて起業したい。そのために進学して学びたい。

### PTAをCSの視点から捉え直し、改めて巻き込んでいくために

注目！

地域連携教育に係る周防大島高校の特徴的な取組として、地域連携教育エキスパートのPTAへの講演があります。PTA総会と併せて開催されたPTA講演会では、地域連携教育エキスパートである山口大学大学院の松田靖教授を招き、「地域に愛され、地域とともにある周防大島高校～未来をつなぐコミュニティ・スクール～」という演題で、地域に愛され、地域とともにある学校がなぜ必要とされているのか、学校を核とした地域づくりとはどういったものなのかを分かりやすく説明していただきました。



松田エキスパートによる講演

ポイント！

学校・家庭・地域が連携・協働を進めていくためには、PTAの地域連携教育に対する理解と協力は欠かせません。全ての学校において、PTA関係者は学校運営協議会の委員として参加していますが、今後ますますコミュニティ・スクールとしての各学校のテーマや取組について、保護者とビジョンの共有を進めていく必要があります。そうした際に、PTA総会といった機会等を捉えて、多くの保護者の方々にコミュニティ・スクールの仕組みについて周知を図っていくということは大変有効な取組といえるのではないのでしょうか。

注目！

### 西村PTA会長の感想

保護者には御自身で事業を営んでいる方が多くいらっしゃいます。そういった方を、生徒の探究学習の講師として活躍していただける場をつくりたいと考えていました。松田教授の話を通じて、周防大島高校の現在の取組が地域の活性化にとって必要なものだと分かり、自分の考えを後押ししてもらえたように感じました。



西村 PTA 会長

県立周防大島高等学校の情報はこちらから→<http://www.suo-oshima-h.ysn21.jp>

